



## 歯科医・彌勒寺寛之の 後悔しない 歯科治療の受け方

## 第26回

### むし歯があるのに治療を しないのはなぜでしょう？ ～むし歯治療の新しい考え方②～

前回は歯を残すのにはどうすればよいか、それは予防処置を行いむし歯にしないこと、そのために

定期的に歯科医院で予防処置を行うことの大切さをお伝えしました。

今回は、「不幸にしてむし歯になってしまった場合はどうすればよいのか」をご説明していきます。

大きなむし歯や小さくても歯の内面まで達している進行性のむし歯（象牙質齲蝕<sup>うしよく</sup>）は、残念ながら治療を行わなければなりません。

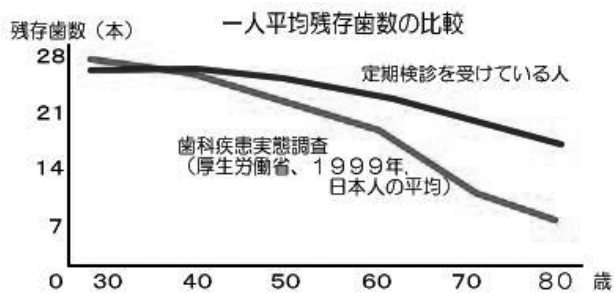
しかし、最近の研究により、歯の内面にまで達しているむし歯（象牙質齲蝕）でも、むし歯の進行がゆっくりであったり、進行が止まっている場合は、自宅と歯科医院での予防処置を行っていけば、むし歯が進行しないことがわかりました。

さらに、表在性のむし歯（エナメル質齲蝕）は、予防処置によってむし歯が治っていくこともあるのです。

この概念はミニマムインターベーション（最小限の侵襲）といわれ、2000年に国際歯科連盟（世界の歯科医師会）によって提唱された新しい概念です。日本の歯科医院にも徐々に広まりつつある新しい考え方です。

まとめますと次の通りです。

- ・歯はなるべく削らない。一度でも削ると、歯の寿命は短くなる。
- ・むし歯にしないためには、自宅と歯科医院での予防処置が大切。
- ・歯の内面まで達しているむし歯（象牙質齲蝕）でも、虫歯の進行がゆっくりであったり、進行が止まっているむし歯であれば、歯を削らずに予防処置によって進行を止めることができる。
- ・表在性のむし歯（エナメル質齲蝕）は予防処置によってむし歯が治ることもある。



資料：熊谷崇「実践カリオロジー」

以上です。ご理解いただけただでしょうか。ご不明な点などがありましたらお気軽にお問合せください。また、むし歯の予防処置に関しては、当クリニックのホームページ (<http://tda86.com>) にも記載していますのでご参考になさってください。

予防歯科で歯の寿命を伸ばしましょう！



～著者プロフィール～

土沢デンタルクリニック院長 彌勒寺 寛之（みろくじ ひろゆき）1979年東京生まれ  
住 所 宇都宮市本丸町11-12 T E L 028-634-5141 (URL) <http://tda86.com>  
所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会  
日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。  
当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

（この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。）

